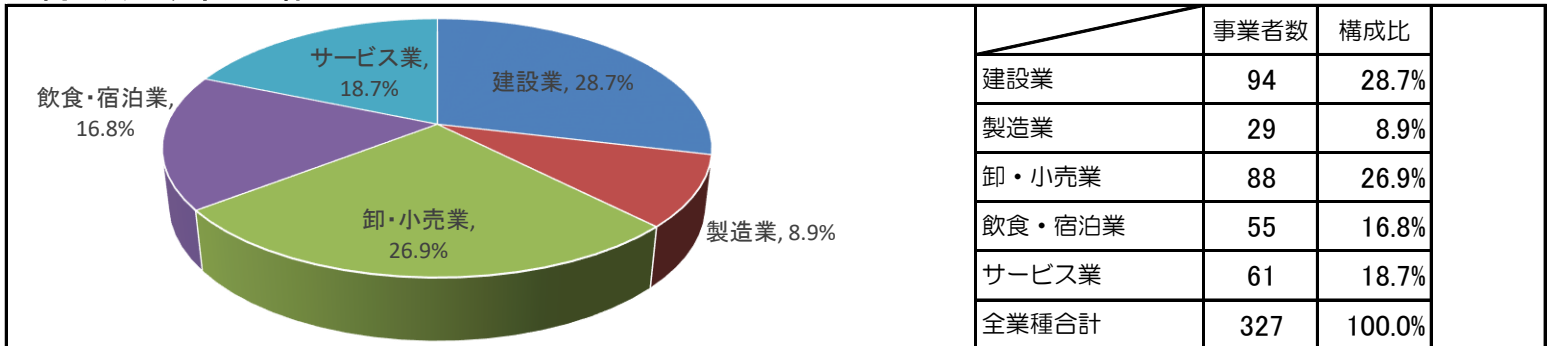


十日町市商工会地域 企業景況調査 第1四半期報告書（H29.4.1～H29.6.30）松代町地区

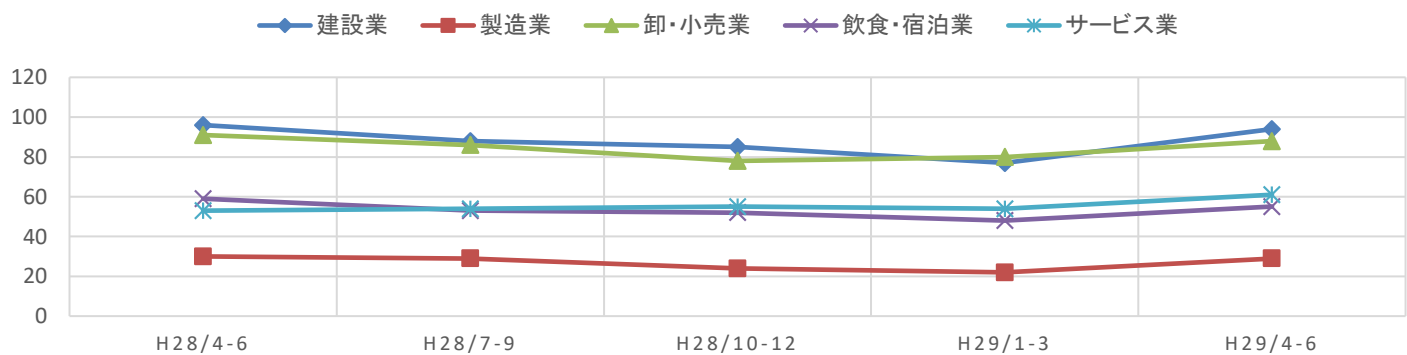
小規模事業者以外含む全事業所

◇ 調査対象事業所構成割合

<商工会地域市内全体>



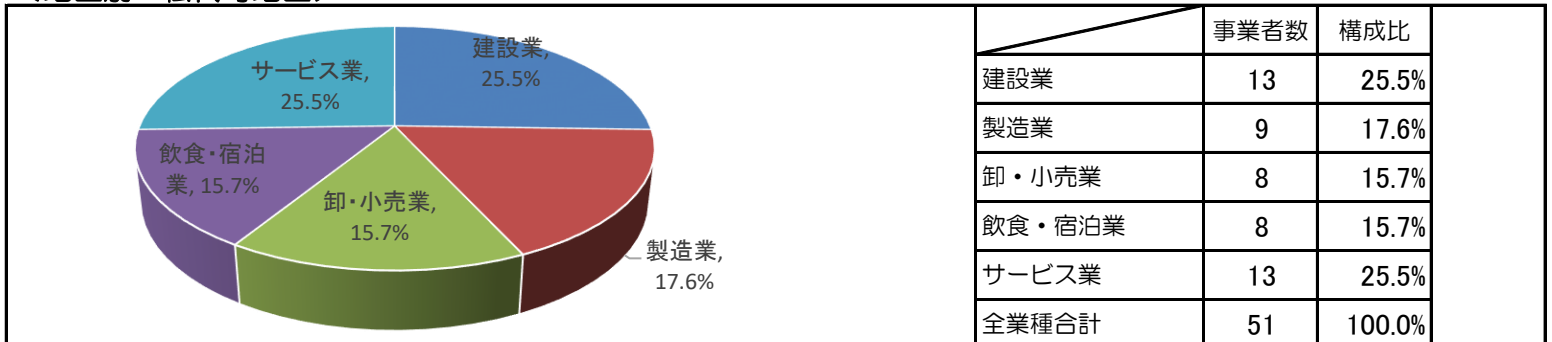
業種別調査事業所数の推移（市内全体）



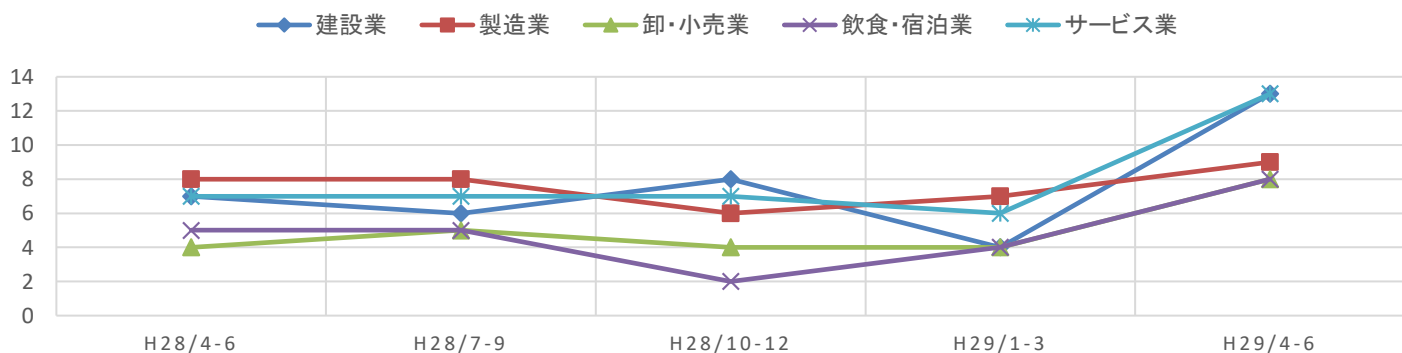
<コメント>

市内商工会地域全体の商工業者1056社の約31%からの回答を基に集計した結果である。製造業の割合が少ないものの、その他の業種に大きな偏りのない調査結果である。

<地区別：松代町地区>



業種別調査事業所数の推移（地区）



<コメント>

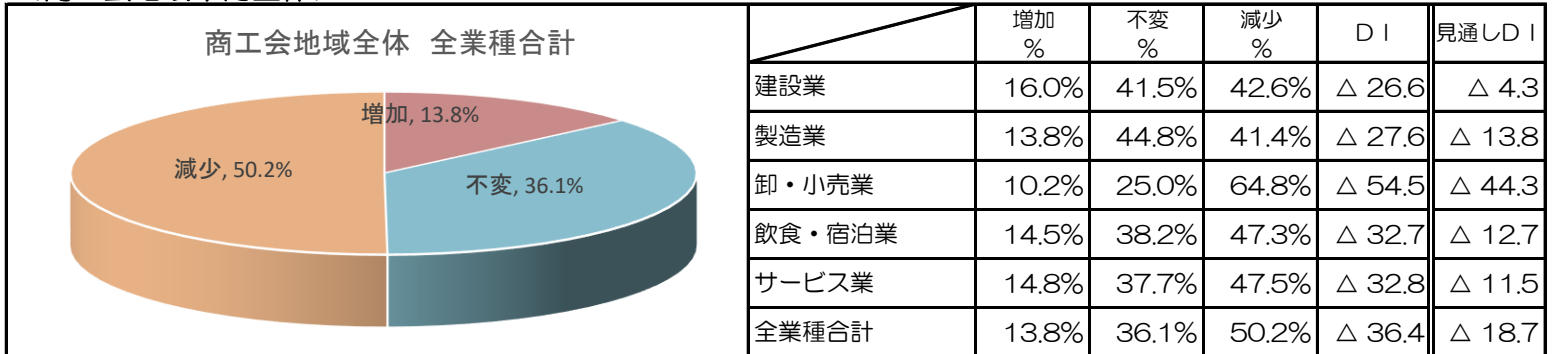
松代地区の商工業者68社に対し調査を依頼し、51社（回収率75%）から回答を得た。昨年度は調査対象事業所を35社としていたため、すべての業種で折れ線グラフが右肩上がりとなっている。回答のあった事業所の構成比は、地区内の小規模事業者の構成比とほぼ同様の数値となっている。

DI 値（景況判断指数）＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

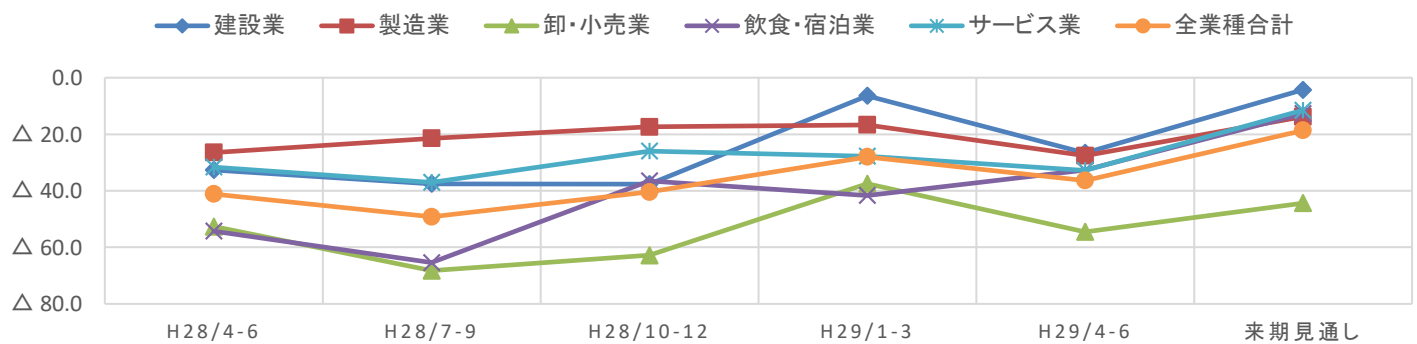
1. 売上について

・4月～6月の売上は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



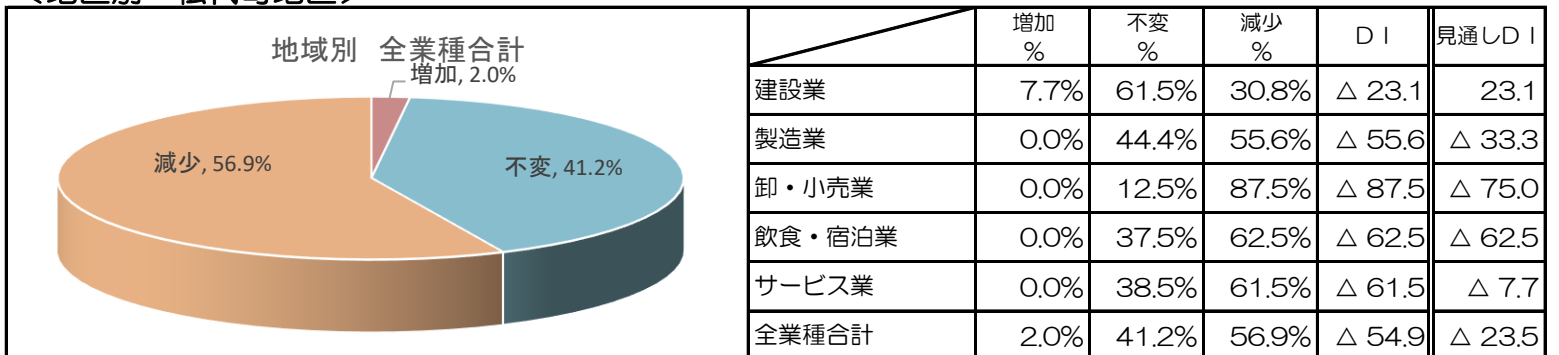
業種別売上の推移（市内全体）



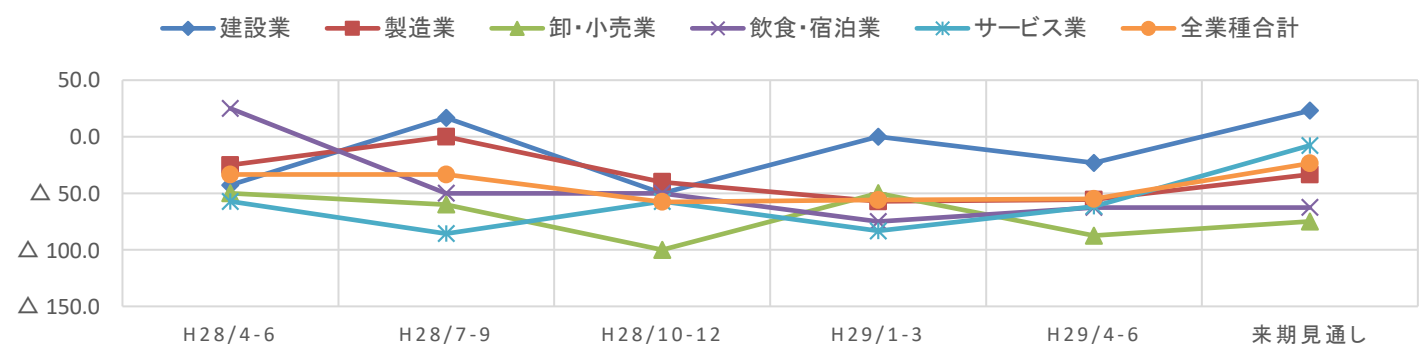
<コメント>

売上は、プレミアム商品券の使用期間中であったものの、前年同期と比較して、全業種で△36.4ポイント減少。特に卸・小売業の減少が目立つ。来期見通しは、全業種で17.7ポイント改善を予想。特に、建設業は22.3ポイント改善を予想している。

<地区別：松代町地区>



業種別売上の推移（地区別）



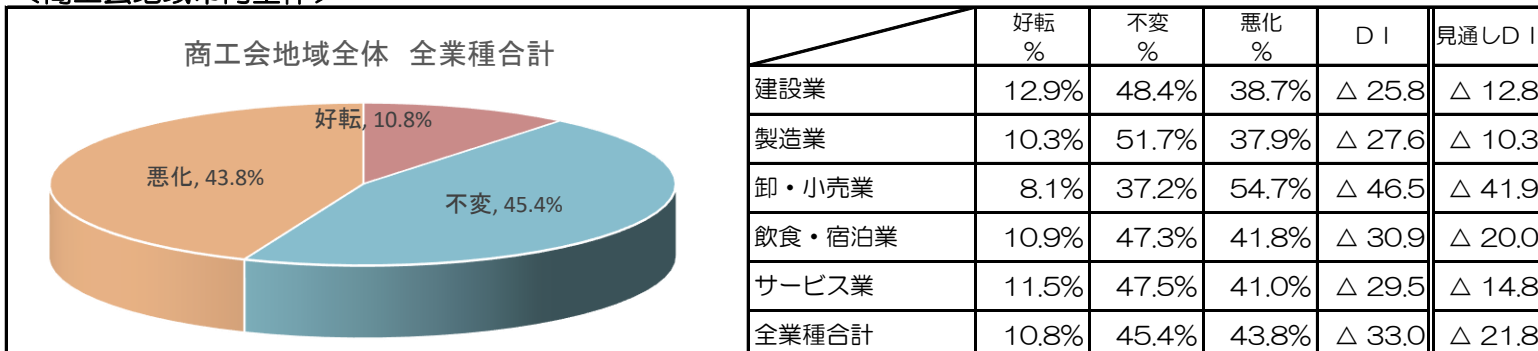
<コメント>

松代地区の売上に対する回答は、建設業で増加と回答する事業所が若干あるのみで、他の業種は不変よりも減少が多く、全体で△54.9ポイントとなっている。来季の見通しでは、飲食・宿泊業以外はマイナス幅が改善しているものの、卸・小売業と飲食・宿泊業はマイナス幅が60ポイントを超えており、厳しい状況がうかがえる。

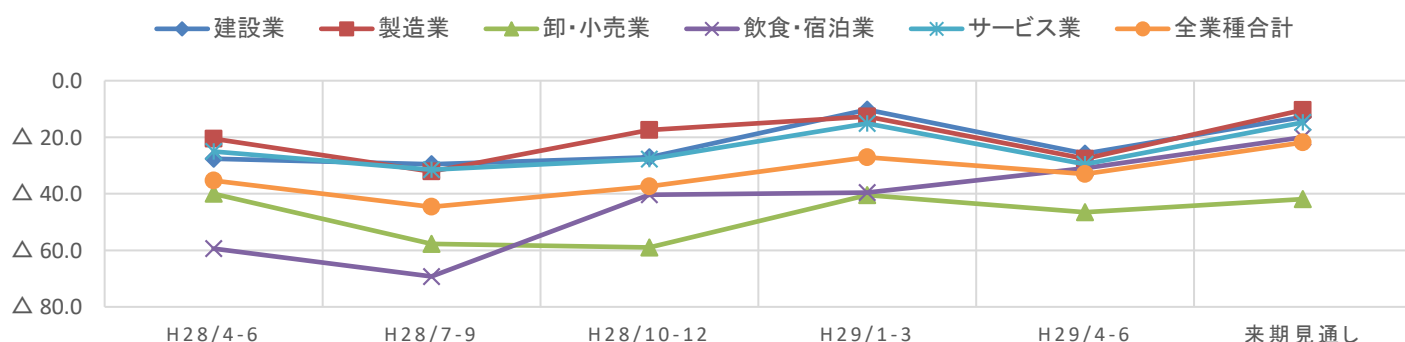
2. 採算について

- ・4月～6月の採算は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



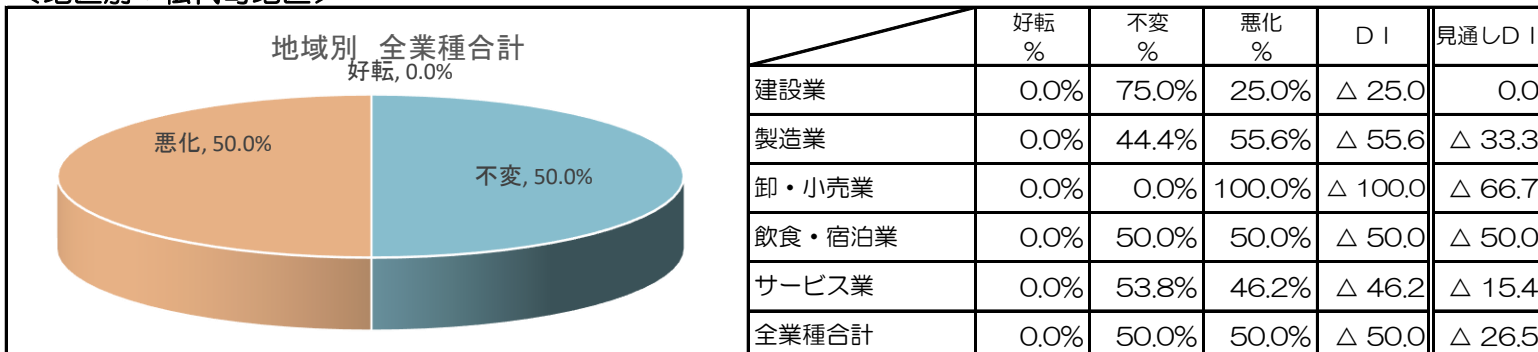
業種別採算の推移(市内全体)



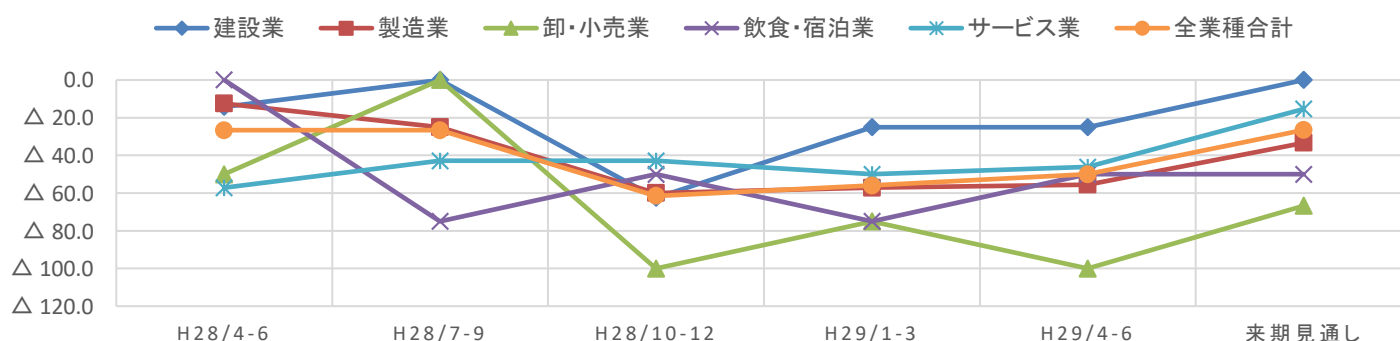
<コメント>

採算は、前年同期と比較して、全業種で△33ポイント悪化。特に卸・小売業の悪化が目立つ。来期見通しは、全業種で11.2ポイント改善を予想しているが、卸・小売業は、依然として厳しい予想をしている。

<地区別：松代町地区>



業種別採算の推移(地区別)



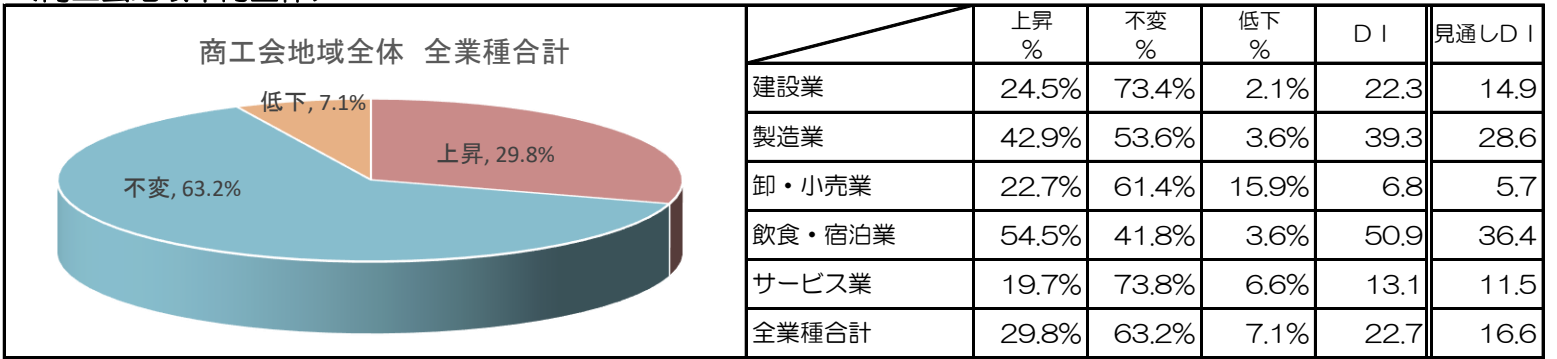
<コメント>

松代地区の採算に対する回答は、すべての業種で好転の回答が1件もなく、卸・小売業では悪化が100%となっている。他の業種では、建設業で△25ポイント、それ以外は約△50ポイントとなっている。来期の見通しでは、マイナスが改善しているものの、やはり卸・小売業、飲食・宿泊業で厳しい見方となっている。

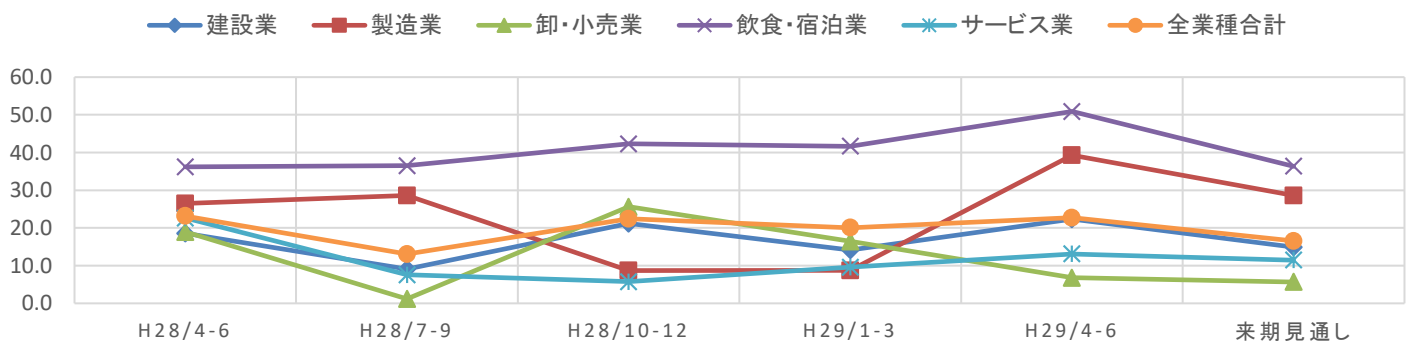
3. 仕入単価について

- ・4月～6月の仕入単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



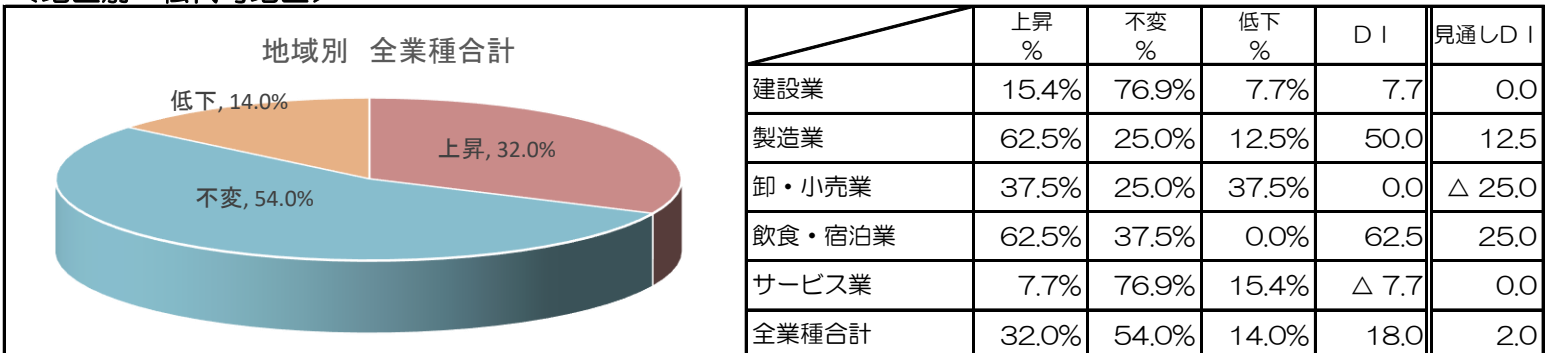
業種別仕入単価の推移(市内全体)



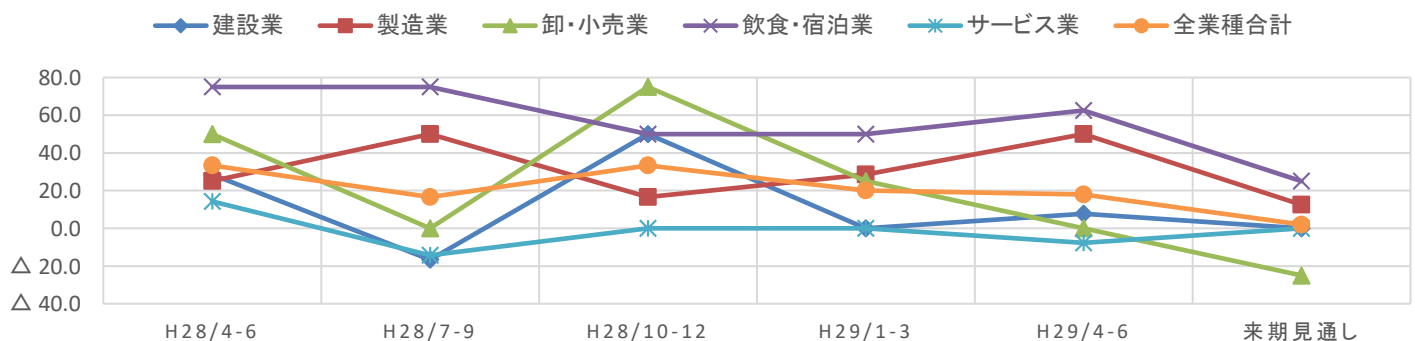
<コメント>

仕入単価は、前年同期と比較して、全業種で22.7ポイント上昇。特に、飲食・宿泊業及び製造業の上昇が目立ち、売上原価を押し上げている。来期見通しでも、若干落ち着いていくように思われるが、この傾向は変わらないと予想している。

<地区別：松代町地区>



業種別仕入単価の推移(地区別)



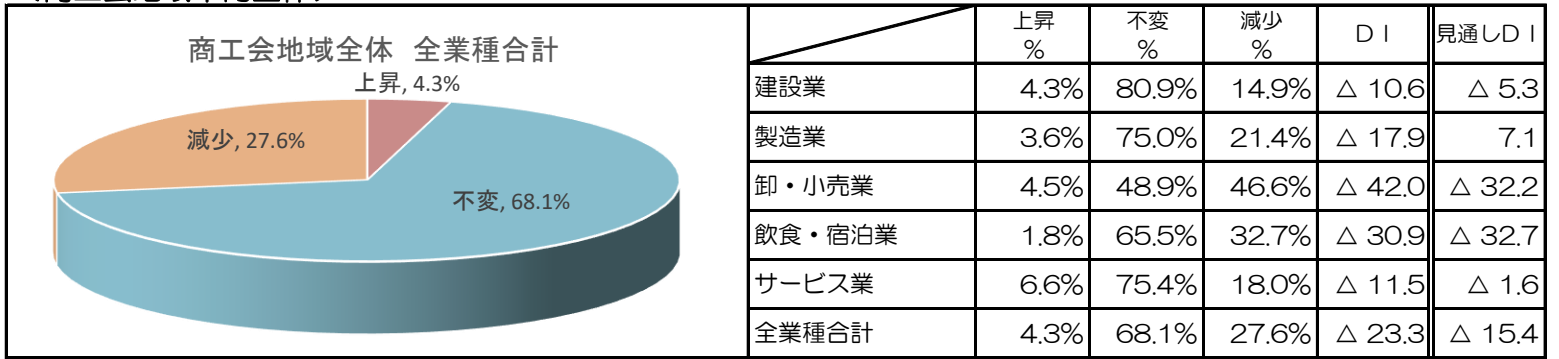
<コメント>

松代地区の仕入単価に対する回答は、業種間で二極化された回答となっており、製造業と飲食・宿泊業のDIは50ポイントを超え、仕入単価の上昇傾向がうかがえる。来期の見通しでは、業種全体で2ポイントと落ち着きを見せているもののやはり業種間で二極化傾向にある。

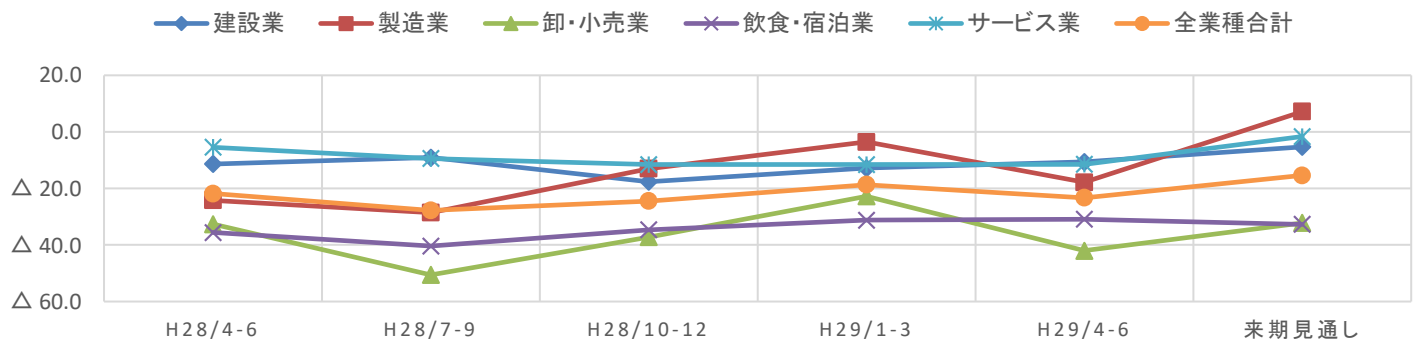
4. 販売（客）単価について

- ・4月～6月の販売（客）単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



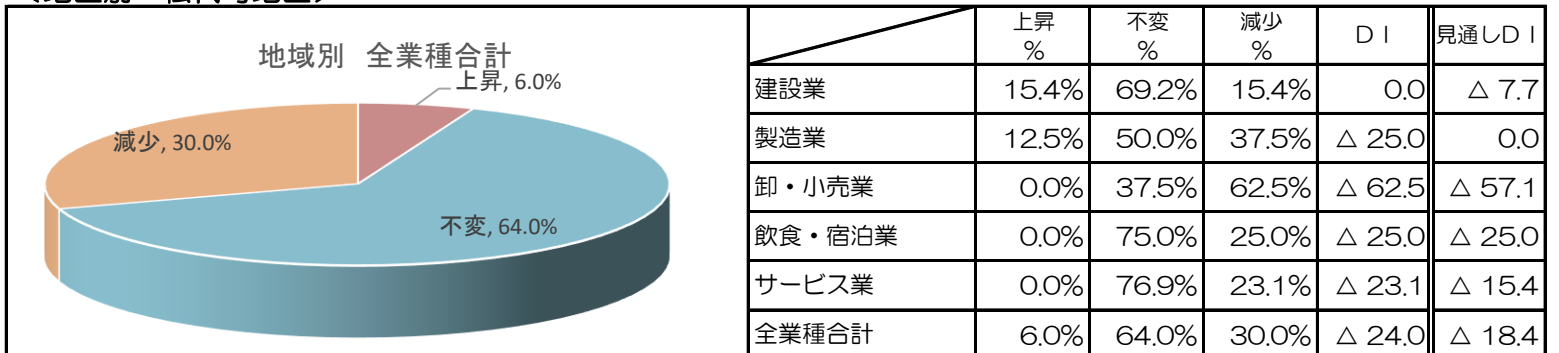
業種別販売（客）単価の推移（市内全体）



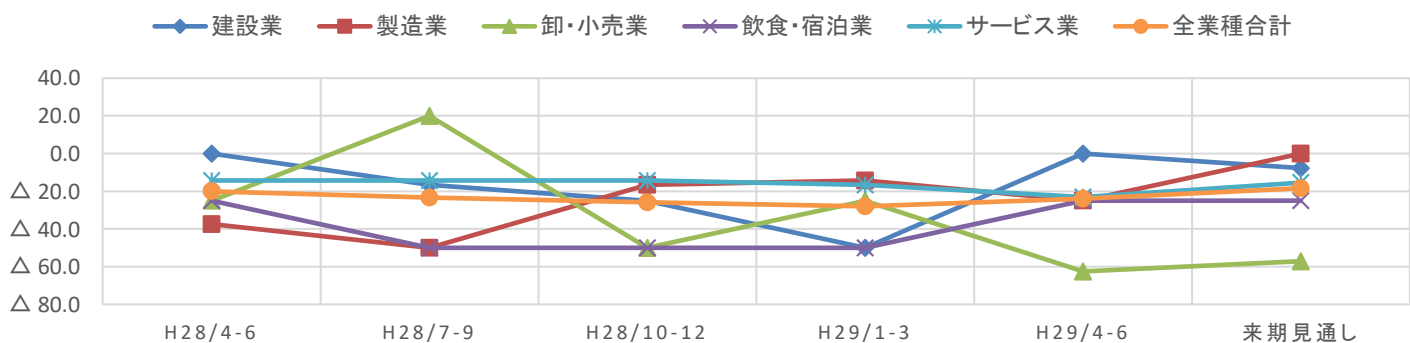
<コメント>

販売単価は、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、△23.3ポイント低下。来期見通しは、全業種では上昇傾向であるが、飲食・宿泊業は減少傾向と厳しい見方をしている。

<地区別：松代町地区>



業種別販売（客）単価の推移（地区別）



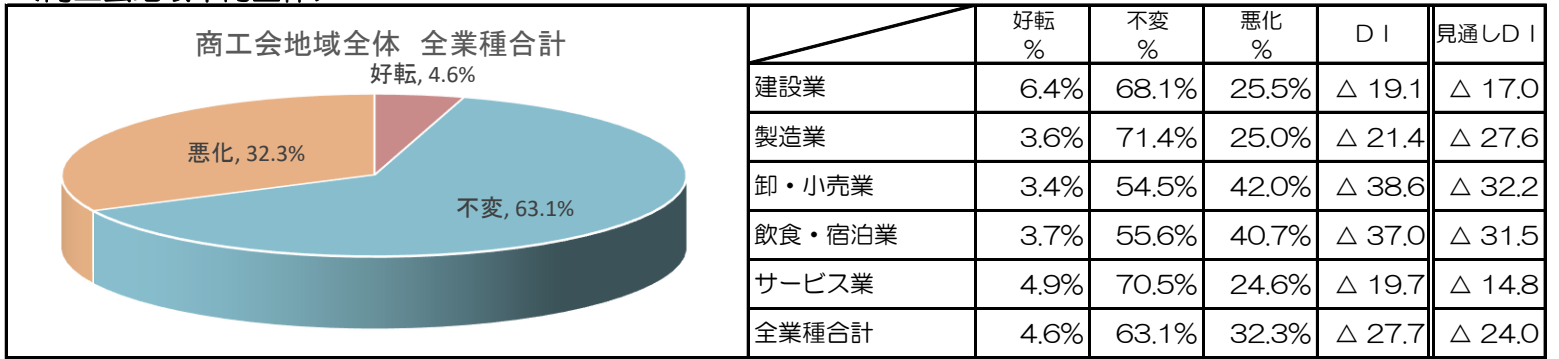
<コメント>

松代地区の販売単価に対する回答は、全業種で△24.0ポイントとなっているが、卸・小売業では△62.5ポイントであり、減少傾向が大きく表れている。来期の見通しでは、全業種で△18.4ポイントとマイナス幅が少なくなっているが、卸・小売業のDIが特に悪い結果となっている。

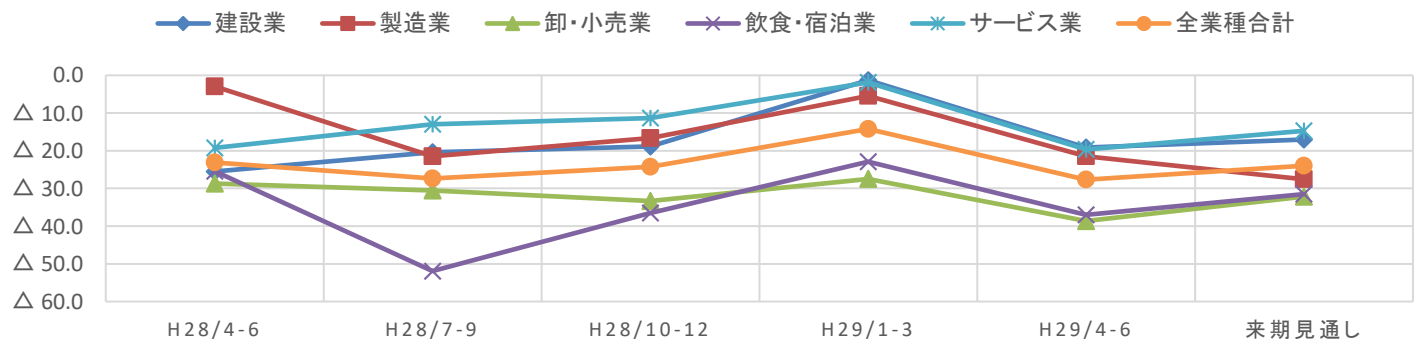
5. 資金繰りについて

・4月～6月の資金繰りは前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



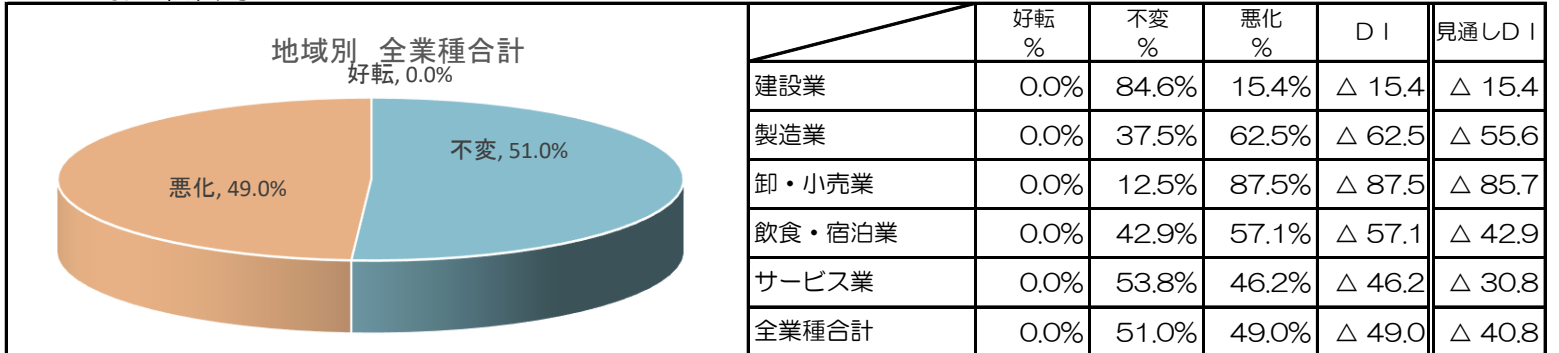
業種別資金繰りの推移(市内全体)



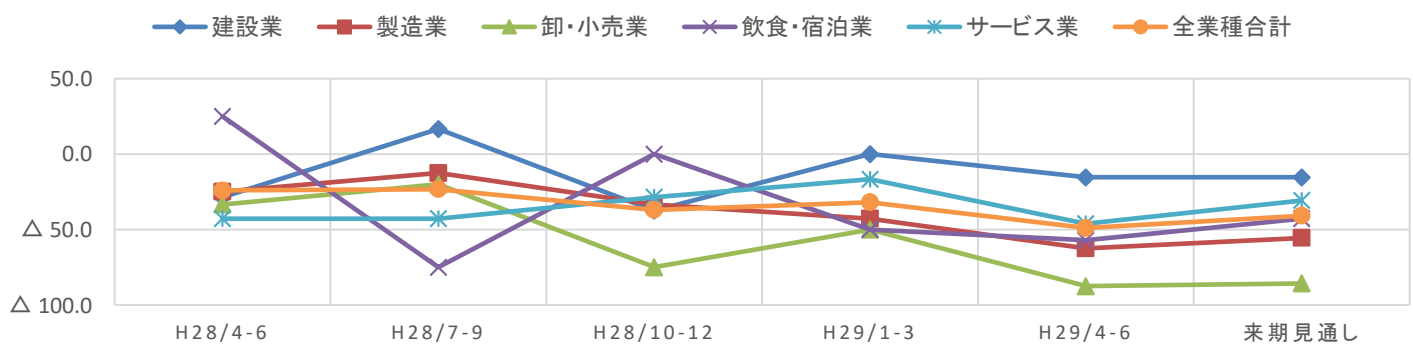
<コメント>

資金繰りは、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、△27.7ポイント悪化。特に、卸・小売業及び飲食・宿泊業の悪化が目立つ。来期見通しでも、この傾向は変わらない。

<地区別：松代町地区>



業種別資金繰りの推移(地区別)



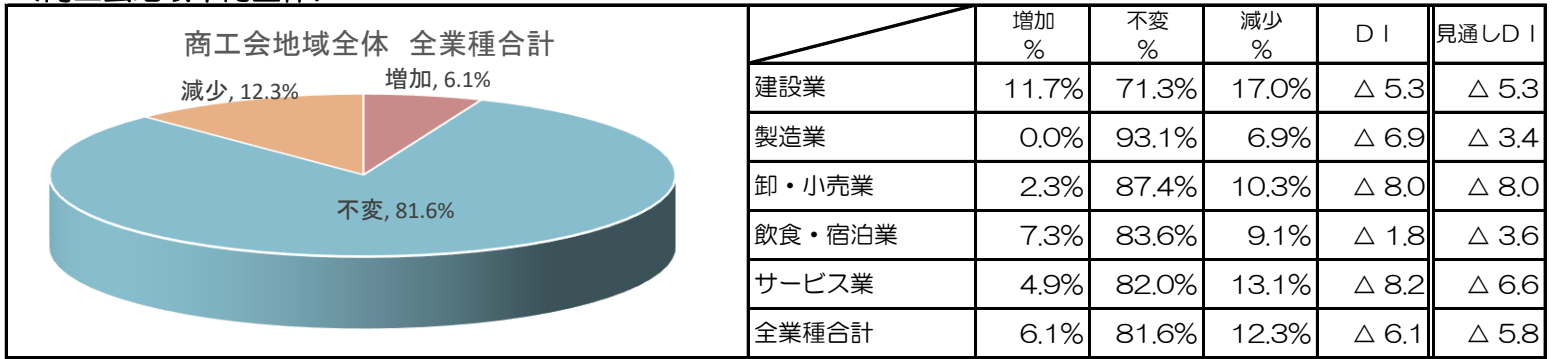
<コメント>

松代地区の資金繰りに対する回答は、全業種で「好転」の回答がゼロで、DIは△49.0ポイントとなっている。業種別では卸・小売業が△87.5ポイントで、製造業、飲食・宿泊業も△50ポイントを超えている。来期の見通しも同じ傾向になっており、資金繰りの悪化は今後も続くとみられる。

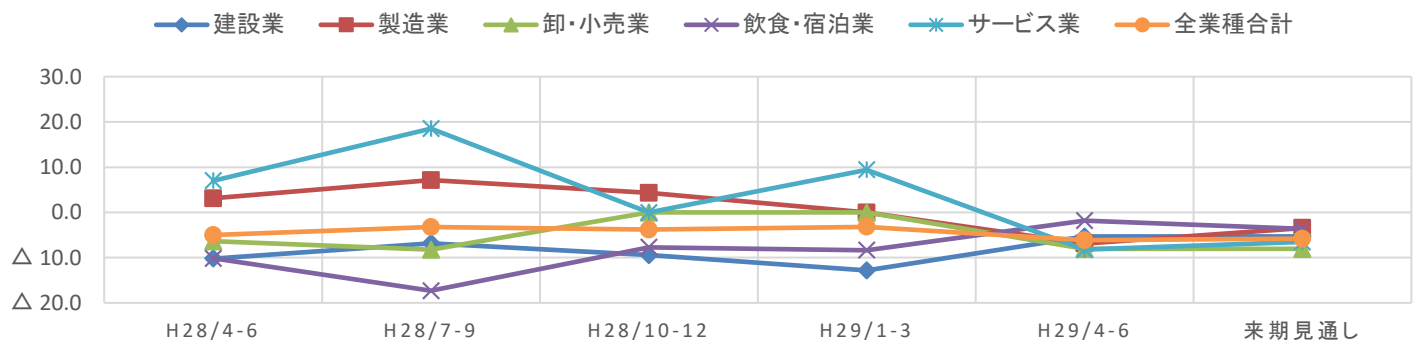
6. 従業員数について

- ・4月～6月の従業員数は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



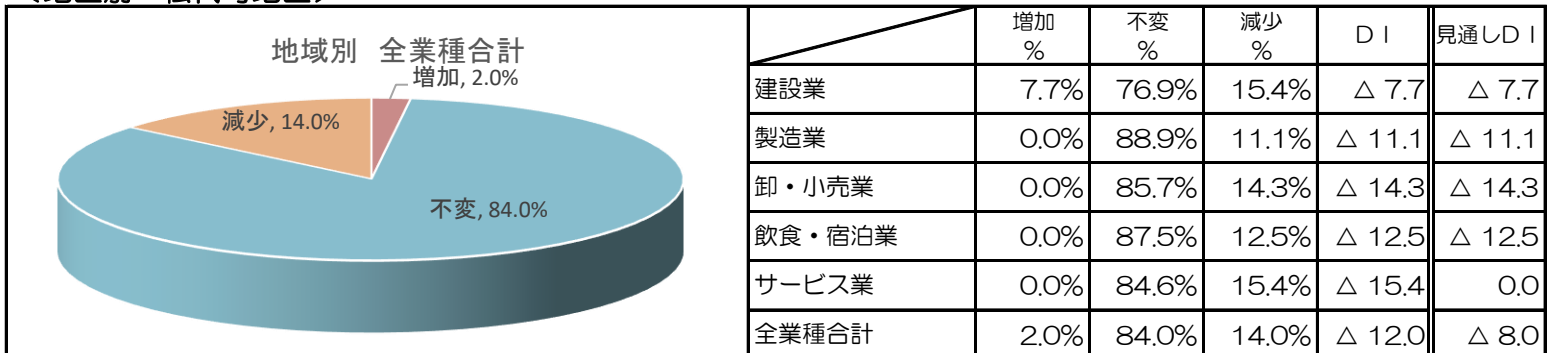
業種別従業員数の推移(市内全体)



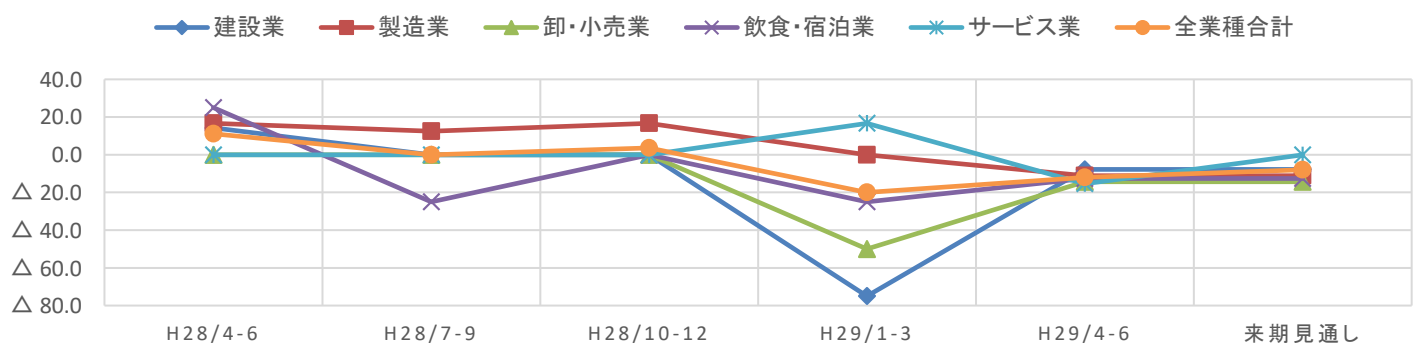
<コメント>

従業員数は、前年同期と比較して、全業種で不変基調であるが、△6.1ポイント減少。来期見通しも同じような傾向である。

<地区別：松代町地区>



業種別従業員数の推移(地区別)



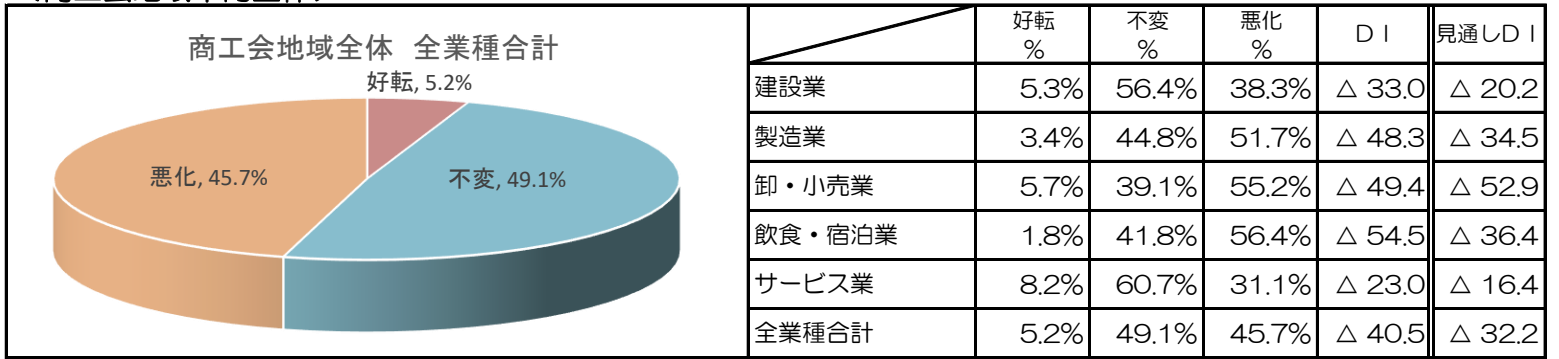
<コメント>

松代地区の従業員数に対する回答は、全業種を通じて「不変」という回答が多いが、DIは△12.0ポイントとなっており若干の減少傾向がうかがえる。来期の見通しでも同じような傾向がうかがえる。

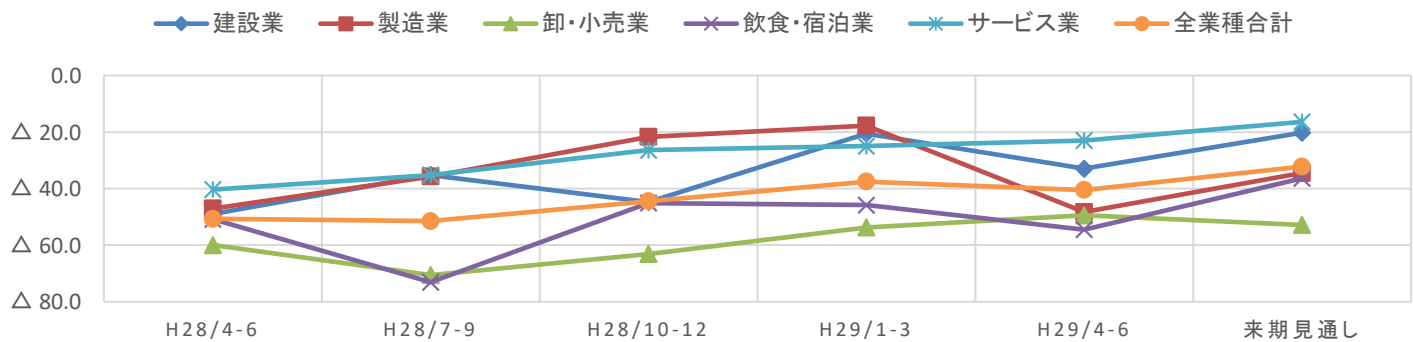
7. 景況判断について

- ・4月～6月の景況は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



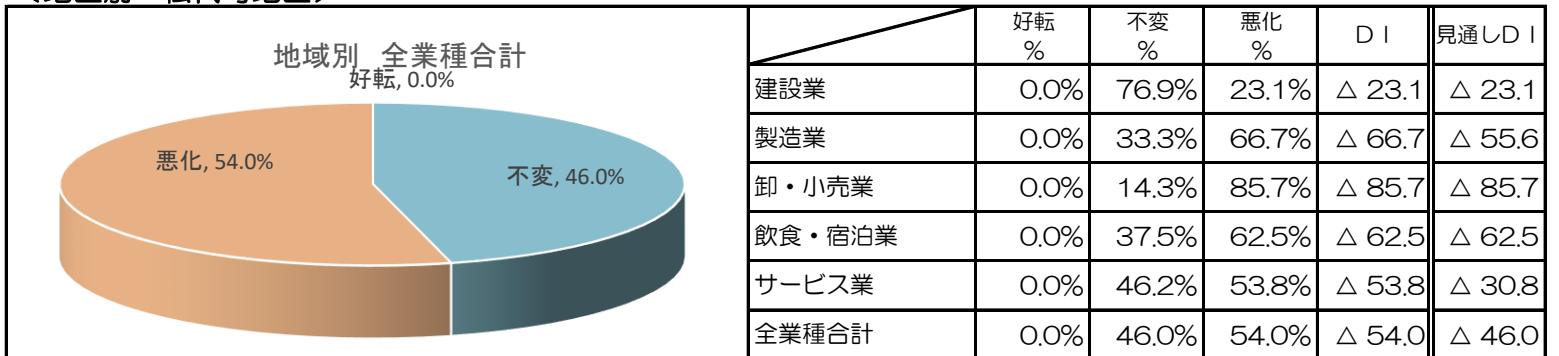
業種別景況判断の推移(市内全体)



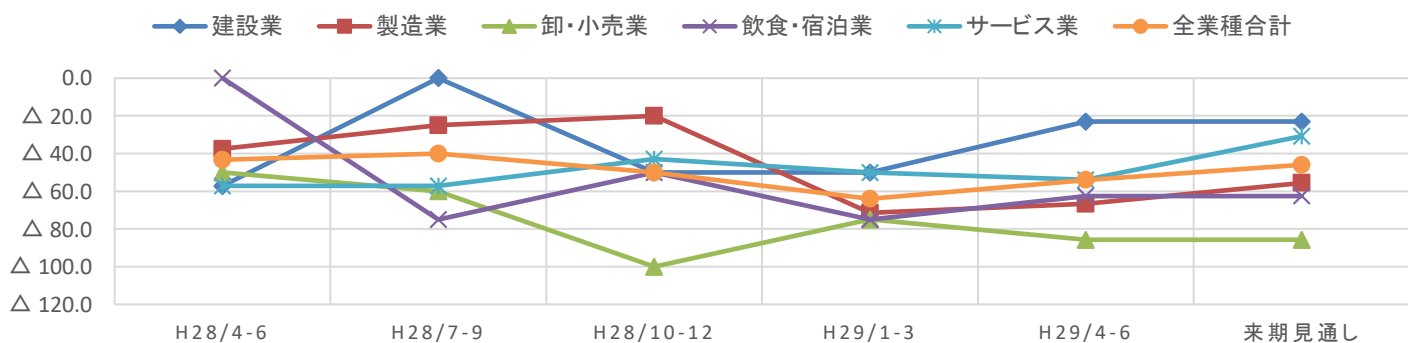
<コメント>

景況は、前年同期と比較して、全業種で△40.5ポイント悪化。製造業及び卸小売業並びに飲食・宿泊業の半数以上が悪化と回答している。来期見通しは、全業種で8.3ポイント改善予想であるが、卸・小売業では△3.5ポイント悪化を予想している。

<地区別：松代町地区>



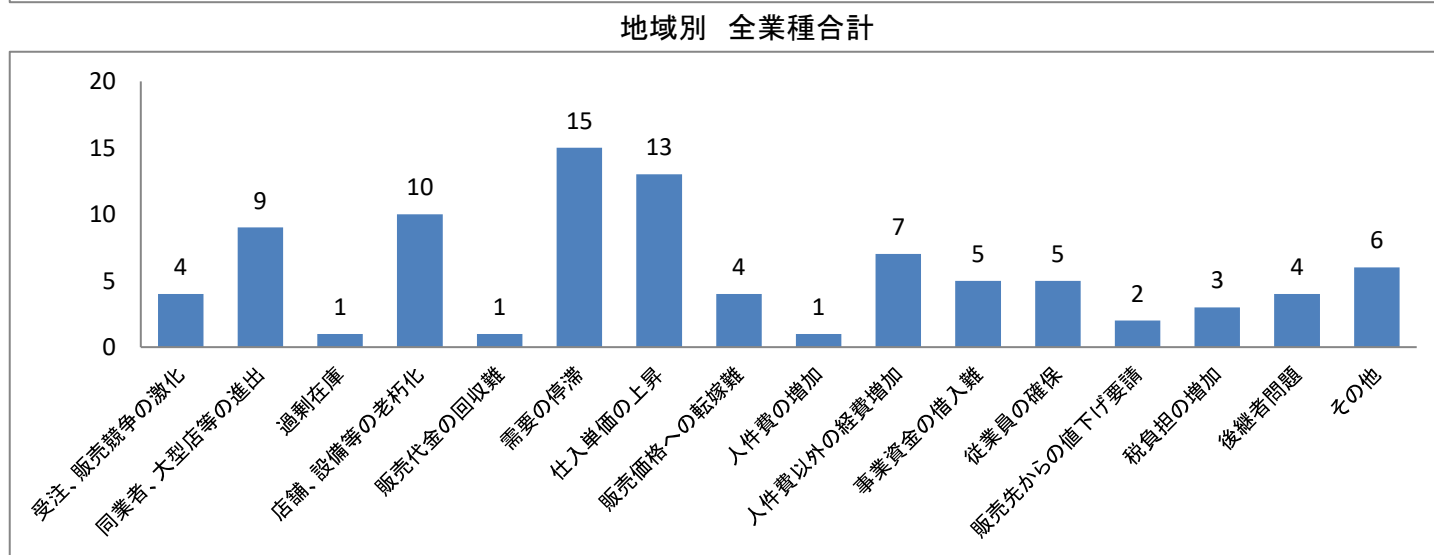
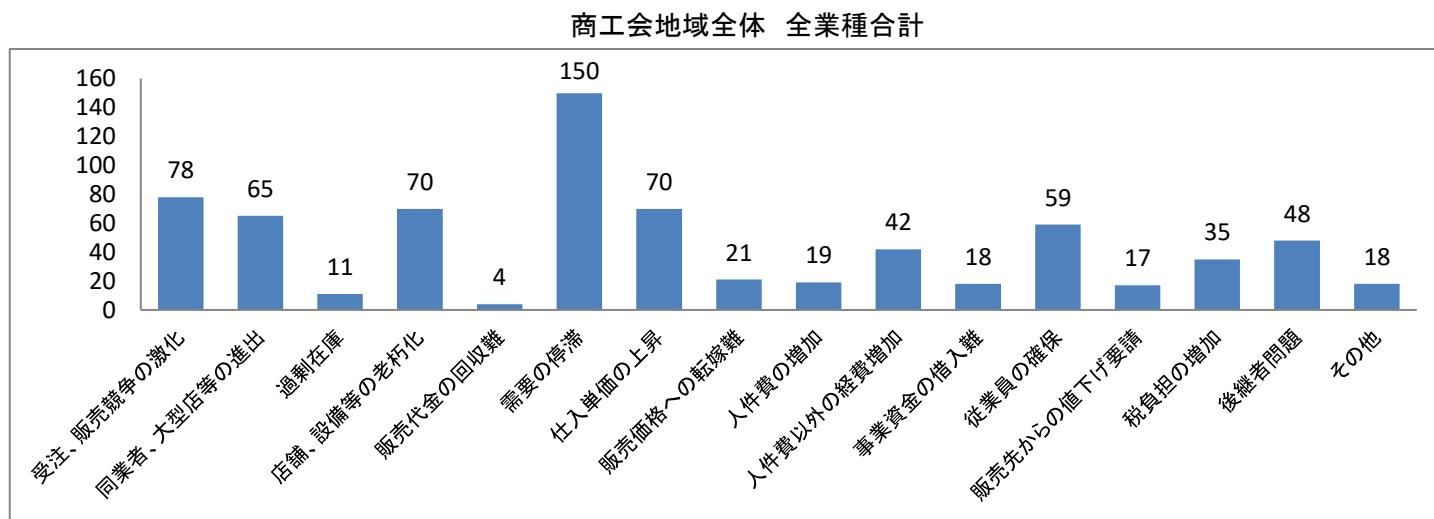
業種別景況判断の推移(地区別)



<コメント>

松代地区の景況判断に対する回答は、全業種を通じて「好転」の回答はゼロであり、DIは△54.0ポイントと、「悪化」が「不変」を上回っている。業種別では、建設業を除き他の業種では「悪化」の回答が多く、特に卸・小売業のDIが悪くなっている。来期の見通しでも同じような傾向が表れている。

8. 経営上の問題点（上位3つ）：4月～6月



<コメント>

経営上の問題点、1位「需要の停滞」2位「受注、販売競争の激化」3位「店舗、設備等の老朽化」「仕入単価の上昇」となり、前回調査の1位、2位は、今回も変わらなかったが、3位「従業員の確保」は6位となった。

9. 地区全体の景況概要

・4月～6月時点での全体概況は

<p>【建設業】 前年同期比では、「不変」という回答が一番多いものの、仕入単価の項目を除いて「減少・悪化・低下」の回答が上回り、昨年に比べ景況感は若干悪いと判断できる。経営上の問題点では、「後継者問題」や「設備の老朽化」という項目に複数の回答があり、調査対象を広げたことで昨年は回答がなかった「後継者問題」が新たな課題として浮かび上がってきた。来期の見通しでは、売上の項目でDIがプラスになっており、仕事量の増加が見込まれるが、景況判断は△23.1となり景気を刺激するまでには至っていない。</p>
<p>【製造業】 前年同期比では、売上の減少に加えて仕入単価は上昇しているため、採算性や資金繰りが悪化し景況判断も悪化している。経営上の問題点では、回答の多いものから「需要の停滞」、「仕入単価の上昇」、「受注・販売競争の激化」と続き、昨年同様の課題が上げられている。来期の見通しでは、「売上・採算性・販売単価」の項目で若干の改善が見込まれるものの、景況判断は依然として厳しい見方となっている。但し、仕入単価の上昇は落ち着くという見方が表れている。</p>
<p>【卸・小売業】 前年同期比では、好材料となる「売上・採算性・販売単価・資金繰り」の各項目で「増加・好転・上昇」という回答はゼロであり、「不変」という回答も少ないことから、「景況判断」が悪化し非常に厳しいものとなっている。経営上の問題点では、「同業者・大型店等の進出」が一番多く、次いで「需要の停滞」となっている。来期の見通しでは、若干の改善がうかがわれるものの、今回の調査においては、一番厳しい結果が出た業種となっている。</p>
<p>【飲食・宿泊業】 前年同期比では、好材料となる「売上・採算性・販売単価・資金繰り」の各項目で「増加・好転・上昇」という回答はゼロであり、「景況判断」は厳しいものとなっている。経営上の問題点では、「需要の停滞」と「仕入単価の上昇」を回答する事業者が同数あり、売上の伸び悩みとともに利益率の圧迫がうかがえる。来期の見通しでは、仕入単価の上昇が落ち着くとの見方が見て取れるものの、その他の項目では厳しさが継続する見方となっている。</p>
<p>【サービス業】 前年同期比では、好材料となる「売上・採算性・販売単価・資金繰り」の各項目で「増加・好転・上昇」という回答はゼロであり、「景況判断」は厳しいものとなっている。経営上の問題点では、「店舗・設備の老朽化」、「販売価格への転嫁難」、「人件費以外の経費増加」を回答する事業者が同数あり、業種の特徴として価格転嫁への課題があげられる。来期の見通しでは、「売上や採算性・資金繰り」の項目で「増加や好転」の回答があり、回復を見込む兆しがうかがえる。</p>